

先の所謂政権交代選挙の大きな代償を日本は支払わざるを得ないようだ。政権が交代したのだから、国内問題で前政権と大きく異なる政策を打ち出すことも許されよう。然し、国際関係で全く異なる方向を実行することは如何なものか。革命でも起きたのであれば、在り得るのだろうが、少なくとも民主主義的に政権が交代したのであれば、それは許されない。また、普天間の移設問題の迷走を考えた時に気になるのが、首相の安全保障観であり、民主党の安全保障に対する基本的な考え方への違和感である。沖縄或いは日本駐留米軍の抑止機能、即応機能に対する無視ないしは意図的な軽視、米国に対する甘え、対等という言葉への実態をないがしろにした陶醉、日米中を正三角形(でありたいとの願望は解かるが、・・)とする認識不足等々、日本は漂流を続け再起出来なくなるのではないかと危惧する。一方、これらを攻めるべき自民党も不甲斐ない。何故攻めきらない。国家の基本方向について堂々と国民に方向性を示し民主党と戦わないのか。彼の敵失或いは自滅を待つのみとしか見えぬ。情けない限りである。

さて、久々の「折々の記」である。実はこの間、他の業務や私的用件で、バタバタしており、折々の記を書く余裕がなかった。二足三足の草鞋を少々整理したので、精神的にも、肉体的にも余裕が出来たので、折々の記を書こうと思い立った次第である。

12月19日、品川区立総合区民会館で、NPO 法人 NBCR 対策推進機構主催の「東京危機管理都民フォーラム2009」が開催されたので、参加した。その所見を幾つか述べたい。



1 意欲的な試みに敬意!

今回のフォーラムの講師陣等の多彩さに正直驚きもし、感心もした。関係者の御努力に敬意を表したい。内閣官房審議官、総務省消防庁の部長等の政府からの防災・国民保護の担当セクション、警視庁の部長、東京消防庁の部長、陸自東部方面総監部の防衛課長、中央即応集団の中央特殊防護隊長等のエリア担当の主務部長等、医療・衛生面からの北里大学の教授とバラエティに富み、幅広く関係者が一堂に会して、聴衆に夫々の見地から示唆に富む講演をして貰った。特定分野のみの講演はあるが、幅広く聞けるというのは非常に有難いことである。

更に、協賛企業の防災関係の展示説明もあり、非常に解かり易かった。

2 枠組みは出来たが、未だ周知徹底ならず!

国家や政策的には逐次に体制整備が進められているが、国民のレベルとなるも課題もあり、今後の啓蒙普及が必要であり、官民一体の努力が求められている。

過去の各種災害・事件・事故等の反省に鑑みて、体制整備が図られて来た。

3 事態の発生初期対応が課題!

各種計画は完整している。然し、夫々の計画はそれが認定されて以降の計画である。問題は、事態認定に至るまでの初動対応を如何にするかである。この認識は小生も全く

同感である。小生の国民保護論文『「平時」から「有事」への移行と国民保護』
(<http://homepage2.nifty.com/teruo3/npo-top-frame/peace-to-emergency.pdf>) を参照して頂きたい。初動対処の為の現地調整所の運用を更に詰める必要がある。

- 4 国民保護に関する訓練の更なる深化
やっとならば都道府県レベルの訓練が全都道府県が実施完了することとなる。色々な訓練を多角的に行う必要がある。シナリオ訓練からブラインド訓練へ、化学テロ事態対処訓練から様々なテロ、CBRNE 対処訓練、テロのみではなくミサイル攻撃や工作員侵入対処訓練へ、単独訓練から複数県等への広がり等が今後の方向性である。
- 5 大都市のテロ攻撃の傾向
key word は、「国産テロリスト」「手製爆弾」「ソフトターゲット」である。
- 6 新型インフルエンザについて
感染源、感染経路及び免疫欠の3つがなければ感染は起きない。一般的には40年周期だそう。
- 7 化学テロと同様の工業用毒性化学物質の存在は脅威であるとの認識を共有すべきである。
- 8 テロ災害対策には各種機関の相互連携が不可欠
- 9 トリアージは、日本人の風土に適するのかわ?
- 10 NATO 諸国のCBRN対応は先進的、参考になる事項多々あり。
- 11 小生にとっては、「麻薬探知犬」初見参、遊んで貰いたくて麻薬を探するという発想が面白かった。
- 12 対策本部(訓練)支援システム参考になった。今後もう少し勉強してみたい。

(了)